

相生学院すきなし

男子団体

テニス

(第6日、神戸総合運動公園コート)
春の全国選抜大会王者にすきはなかった。テニス男子団体の相生学院は、全員無敗で兵庫を制した。
エース河内が欠場しても、16歳以下国別対抗戦ジュニア・テニ代表の斎藤が第2シングルスに控え、一昨年の県総体覇者の池川が



ダブルスに回るほどの分厚い布陣。だが、選手が胸を張るのはチームワークの良さだ。
決勝のダブルス。第1セット第4ゲームを落とし、第5ゲームでは3連続失点した。しかし、池川主将は

全員無敗でV

春夏全国連覇へ弾み

にも時間を割く。春に活躍した諫山、衣川の3年生ペアは今回メンバーを外れたが「団結力の伝統をつくっていききたい」とサポートに心を砕いた。
全国総体へ弾みがつきそうな快勝。池川は「一丸で春夏連覇に挑む」と表情を引き締めた。
(永見将人)



1、2年中心 園田が優勝

女子団体

テニス男子団体決勝の合ったラレーで優勝に貢献した相生学院の池川(右)・細川組(神戸総合運動公園コート) (撮影・宮路博志)

○…テニス女子団体を制した園田は、全国準優勝した昨年の出場メンバーがすべて抜け、1、2年中心の陣容。池田主将は「先輩らが抜けて不安だった」とほっとしたように話した。
1年の山本は園田学園中の全国連覇の立役者。「周りに安心感を与えられるように無駄な失点に気をつけた」と決勝で最初に勝利を決め、勢いをつけた。2年生で第1シングルスを担う加治も全勝し緊張を慣れた。全国優勝を目指す」と意気込んでいた。

兵庫県高校総体

(神戸新聞社後援)

28日は、雨でソフトボールで関学を下し、2年連続となり、8競技が行われた。テニス団体の男子決勝で、相生学院が3-1石城西を3-0で退け、

2年連続23度目の頂点に立った。
陸上では、女子4000メートルを西田文香(北摂三田)が1分1秒08で制し、27日の4000メートルの2冠を果した。同走り幅跳びは宇都宮絵莉(園田)が5尺47を出し、2連覇を飾った。

男子3000メートル障害は内村亮(市尼崎)が9分5秒19で初優勝。女子4000メートルリレーは夙川が47秒93で25年ぶりに制した。
サッカー男子は準々決勝を行い、報徳と関学、滝川第二、市西宮が4強に進んだ。

きょうの競技

陸上最終日(9時・ユニバ記念競技場) バスケ第2日(9時・伊川谷北高ほか) バレー第3日(10時10分・グリーンアリーナ神戸ほか) ソフトテニス第1日(9時・しあわせの村ほか) ハンドボール第2日(10時・武庫川女大)

サッカー女子最終日(14時・みきほうパークひょうご) バドミントン第2日(9時40分・神戸市立中央体育館ほか) ソフトボール第1日(9時・加古川河川敷球技場ほか) ボート最終日(8時・円山川城崎漕艇場) ボクシング最終日(13時・西宮香風高) テニス第7日(9時・神戸総合運動公園コート)